生命(いのち)を考える

生命とは何なのか。
いま、自分がここに息づいていることの偶然性。
そして、一度しか抱きしめることができないという有限性。
さらに祖先から受け継ぎ、子孫へ受け渡していく連続性。
———生命とは何なのだろう。

私たち人間ばかりではなく
生きとし生けるものすべてに
思いをはせてみる。

その残り時間を意識したときに
生命に対するいとおしい思いが深まるというけれど
いまの私たちにだって、きっとできるはず———。
生命とは何なのかを考えること。

生命を考える
偶然性
いまここにいる不思議

地球の永い永い歴史を考え
人類の誕生を考え
そしていまここにいる自分を考えてみる。
こうやって生きていること
存在していることが
何か不思議に思えてくる。
私のまわりに
いつもの笑顔、いつもの声。
でも、この人たちとの出会いも
いまここに生命を授(さず)かっているからこそ。
星の数ほどの偶然があって
私自身の、いまここにいることの不思議。
考えれば考えるほど大切にしたいと思う
この生命。

生命を考える

有限性

いつか終わりがあること

遠い日の夏祭り。金魚すくい。
そして金魚が死んでしまったあの秋の日。
そっと土に埋めてあげた幼い自分を覚えている。
生あるものには終わりがあると
しんみり思ったあの夕方。
自分の生命だって
きっと終わりがやってくる。
一度しかない
一度しか抱きしめることのできないこの生命の証(あかし)を
自分はこの世に
どのように刻んでいけばよいのだろう。
もっともっと
生きていることを実感し、喜びたい。
そしてかけがえのない私の人生を、生命を
もっともっと輝かせていきたい。

生命を考える

連続性

ずっとつながっていること

この生命は私のもの。
だれのものでもない、かけがえのない私のもの。
でも、どこからやってきたのだろう。
――そう
これは私が受け継いだもの。
ずっとずっと遠い遠いむかしから受け継がれ
受け継がれて、私が受け取ったもの。
この生命は私のものだけれど
私だけのものではない。
私は生命という襷(たすき)を受け取り
人生という長いコースを走りきらねばならぬ駅伝走者。
転んでも、立たなきゃならない
くじけるわけにはいかない。
襷を私に届けてくれた人たちのためにも
そして私の襷を
待っている人たちのためにも。